

福祉の未来を拓く

# 社大福祉フォーラム 2024

(第62回日本社会事業大学社会福祉研究大会)

## 《大会テーマ》

『生』に寄り添う社会福祉 ～声なき声を受け止め、ともに歩む～

## 《 日 程 》

2024年6月22日(土)・23日(日)

### 【1日目】6月22日(土)

開催場所…午前:講堂(対面・オンライン)、午後:各教室(対面)

9:30	●受付 午前(講堂) 9:30～			9:30
10:00	●開会式 ●プログラム説明			10:00
10:10	●本部企画 【基調講演Ⅰ】「未来に向かって、もう一度、つながる～声なき声を受け止める、アウトリーチの支援実践を通じて～」 講演者 谷口 仁史 氏(NPO法人スチューデント・サポート・フェイス 代表理事)			10:10
11:40	●木田賞贈呈式 ●学生研究奨励賞贈呈式 ●受賞者スピーチ			11:30
12:10	休憩			12:10
12:20	●学内学会総会			12:20
12:40	休憩			12:40
12:50	●サークル発表			12:50
13:30	●自主企画分科会	●分科会	●分科会	13:30
	① 13:30～15:40 <A301> ●韓国スタディツアーにおける、福祉の学びと交流 (スタディツアー報告)	① 13:30～14:30 <A201> ●複合的な課題を抱える家庭への支援の在り方に関する一考察 -横浜型児童家庭支援センターでの実践に焦点を当てて-	③ 13:30～15:00 <A202> ●『J.ブラッドショー「社会的ニードの分類」とシーボーム報告』 ●台湾現地で視察したホームレス支援団体の活動とソーシャルワークに関する報告 ●中年ひきこもり支援における制度のはざまの問題とアウトリーチ	
	② 13:30～15:40 <A302> ●社会福祉士の輪郭をとらえる	② 14:40～15:40 <A201> ●障害のある子どもをもつ保護者への支援の重要性について -文献レビューに基づく考察-		
	③ 13:30～15:30 <A401> ●環境・災害と福祉の予防的支援	●ドイツにおける介護・看護専門職の養成制度改革とその成果		
	④ 13:30～15:30 <A402> ●産業ソーシャルワーク ～職場のメンタルヘルスにおけるソーシャルワークの必要性と可能性～			
	⑤ 13:30～16:00 <B101> ●「包括的支援を担うそれぞれのソーシャルワーク実践 ～社大から紡がれる新たな力～」			
16:00				16:00

復興カフェ(午前:講堂  
・午後:A棟ロビー)  
同窓会企画(A101)

### 【2日目】6月23日(日)

開催場所…午前:講堂(対面・オンライン)・午後:各教室(対面)

9:30	●受付 (講堂)		9:30
10:00	●本部企画 【基調講演Ⅱ】「新聞記者⇄社会福祉士の視点から 『虫の目、鳥の目、魚の目』～福祉を複眼的に捉えるために～」 講演者 木原 育子 氏 東京新聞特別報道部記者、社会福祉士・精神保健福祉士 (本学通信教育科修了生)		10:00
12:00	休憩		12:00
13:00	●自主企画分科会	●分科会	13:00
	⑥ 13:00～15:00 <A401> ●コロナ禍における介護福祉士の活躍 -当時の日々からわかること-	⑦ 13:00～15:00 <介護実習棟3階床上実習室> ●高齢者ソーシャルワークについて語ろう	
15:00			15:00

復興カフェ(講堂)

※ 講堂:本部企画 分科会 自主企画分科会

1日目 6月22日(土)

開会式

10:00～10:10【講堂・オンライン】

司会：菱沼 幹男（学部教授）

（手話通訳・パソコン通訳あり）

- ・開会のあいさつ 日本社会事業大学社会福祉学会 会長 横山 彰
- ・プログラム説明

基調講演 I

10:10～11:40【講堂・オンライン】



「未来に向かって、もう一度、つながる  
～声なき声を受け止める、アウトリーチの支援実践を通じて～」

（手話通訳・パソコン通訳あり）

講演者 <sup>たにくち</sup> 谷口 <sup>ひとし</sup> 仁史 氏

NPO 法人スチューデント・サポート・フェイス 代表理事



<プロフィール>

佐賀大学文化教育学部卒業。在学中からボランティアで不登校、ニート等の状態にある子ども・若者へのアウトリーチ（訪問支援）に取り組む。卒業後、大学教授ら有志を募り「NPO スチューデント・サポート・フェイス（略称 S.S.F.）」を設立。令和5年3月末日現在、委託事業を含む約68万2千件の相談活動、約5万9千件のアウトリーチに携わった他、市民活動団体を含む幅広い支援機関とのネットワークの構築や「職親制度」等社会的受け皿の創出、執筆や講演活動など多彩な活動を通じて、社会的孤立・排除を生まない支援体制の確立を目指している。

近年はその実績が認められ公的委員を歴任。アウトリーチに関しては、「若年者向けキャリア・コンサルティング研究会」、「高校中退者等アウトリーチワーキンググループ」で委員を務めた他、生活困窮者自立支援法に係る「社会保障審議会特別部会」、子ども・若者育成支援推進法に係る「子ども・若者育成支援推進点検・評価会議」等政府系委員も務め、全国的な取組の推進に貢献している。

- 【共著】 『スクールソーシャルワーク実践技術』 北大路書房（2015.12）  
『ひきこもりの心理支援～心理職のための支援・介入ガイドライン～』 金剛出版（2017.11）  
『社会のしんがり』 新泉社（2020.3）  
『伴走型支援～新しい支援と社会のカタチ～』 有斐閣（2021.8）

木田賞・学生研究奨励賞 贈呈式

11:40～12:10【講堂・オンライン】

司会：菱沼 幹男（学部教授）

（手話通訳・パソコン通訳あり）



【木田賞】  
（実践奨励賞）

- ・垣本 祐作 氏  
（Dotline（ドットライン）グループ創業者・代表者 代表取締役兼グループ CEO/  
社会福祉学部 49 期 2009 年 3 月卒業）



【学生研究奨励賞】

- ・吉池 樂世 さん（2024 年 3 月 社会福祉学部 福祉援助学科 卒業）
- ・市原 綾彌 さん（2024 年 3 月 社会福祉学部 福祉援助学科 卒業）
- ・藤田 茉記 さん（2024 年 3 月 社会福祉学部 福祉援助学科 卒業）
- ・小松 結子 さん（2024 年 3 月 社会福祉学部 福祉計画学科 卒業）
- ・佐々木 旭美 さん（2024 年 3 月 大学院福祉マネジメント研究科 専門職大学院 修了）

## 学内学会総会





12:20～12:40【講堂・オンライン】

司会：菱沼 幹男（学部教授）

（手話通訳・パソコン通訳あり）

## サークル発表

12:50～13:30【講堂】

 文武両道同好会   
  混声合唱団菩提樹   
  マンドリンアンサンブル  
 学生有志団体 Cocoa   
 『復興カフェ』   
 6月22日（土）講堂・A棟ロビー  
 6月23日（日）講堂

## &lt;分科会&gt; 1

13:30～14:30【A201】

コーディネーター：ヴィラーク ヴィクトル（学部准教授）



・複合的な課題を抱える家庭への支援の在り方に関する一考察  
 —横浜型児童家庭支援センターでの実践に焦点を当てて—

保坂 沙弥（大学院博士前期課程2年 / 社会福祉学部63期2023年卒業）

本研究は学部の卒業研究として実施した。昨今の日本では、家庭や子どもの経済的困窮などの家庭環境の複雑化、子どもへの虐待、子どもの育てにくさ、子育ての孤立化など多くの課題が家庭を取り巻いている。そこで本研究では、家庭を取り巻く複合化している課題について、横浜型児童家庭支援センターの支援者へのインタビュー調査を行い、子育て短期支援事業を通じた在宅支援の事例や支援のあり方について帰納的に分類した。その結果、支援者の負担とケースの困難さの深まりや、家庭と児童家庭支援センターの連携だけではなく、保育所や学校などの教育現場との密な連携が必要であることが明らかとなった。



・大学のボランティア活動に関する動機と活動から得られるメリット及び満足度の関連に関する調査

井上 剛（大学院博士前期課程2年）

共同発表者 加賀 滉樹（大学院博士前期課程2年 / 社会福祉学部57期2017年卒業）  
 渡久地 美智留（大学院博士前期課程2年）  
 保坂 沙弥（大学院博士前期課程2年 / 社会福祉学部63期2023年卒業）  
 星 海月（大学院博士前期課程2年）

本研究では、大学生のボランティア活動の促進を図るため、大学生がボランティア活動を始めるに至った動機や活動実態、ボランティア活動を通じて得られているメリット及び満足度を把握し、それらの関連性を考察するとともに、ボランティア活動を始めるうえでの必要なサポートを明らかにすることを目的としている。これからボランティア活動をしていきたいと考えている学生や、これまでボランティア活動を行ったことがない学生へのボランティア活動に対する動機づけを促し、自己実現の一助として、より多くの大学生がボランティア活動へ積極的に参加する機会をつくっていくために行った研究である。

## &lt;分科会&gt; 2

14:40～15:40【A201】

コーディネーター：新藤 健太（学部講師）



・障害のある子どもをもつ保護者への支援の重要性について—文献レビューに基づく考察—

吉田 真依子（大学院博士後期課程1年）

2023（令和5）年障害児通所支援に関する検討会において、様々な出来事や情報で揺れ動く保護者を、ライフステージを通じて、しっかりとサポートしていく重要性が示された。本発表では、障害のある子どもをもつ保護者の置かれている状況、支援の重要性について文献レビューをもとに概観し考察する。



・ドイツにおける介護・看護専門職の養成制度改革とその成果

高木 剛（静岡県立大学短期大学部 / 大学院博士前期課程14期2004年修了）

ドイツでは2020年1月より新たな介護・看護専門職養成制度がスタートした。近年、ドイツでは人口高齢化の進展により、介護・看護サービスの需要が増大する一方で、これらを担う人材不足が問題となっていた。若者にとって魅力的な専門職養成を旨とする改革である。本発表では文献・資料をもとに、その改革内容と成果について報告する。

コーディネーター：贅川 信幸（学部教授）



・『J. ブラッドショー「社会的ニードの分類」とシーボーム報告』  
石井 廣大（学部2年 / 社大福祉ネットワーク）

本発表では、J. Bradshaw (1972) 'A taxonomy of social need' 原論文の読解を行う。  
原論文でブラッドショーは4つのニード定義を組み合わせたソーシャルニードの分類整理を行なうことを提案した。この提案は当時の行政改革を受けて行われたものであり、特にシーボーム報告との関係は深い。そのため、本発表は原論文と当時の時代背景、その中でもシーボーム報告との関係を中心に論じる。それを通して、理論を歴史的な文脈の中に置き直すことを試みる。



・台湾現地で視察したホームレス支援団体の活動とソーシャルワークに関する報告  
向坂 仁奈（学部3年）  
共同発表者 熊澤 ちな（学部3年）

私たちは、3月末に台湾のホームレス支援団体を訪問するスタディツアーを行った。台北の萬華地区を拠点に、8つの団体（台湾芒草心慈善協会・潭馨園、大水溝二手屋、夢想城郷、攸惜關懷協会、人生百味、五角拌、心手村培力中心、思安）を訪問したが、それぞれ特徴的で、異なる側面からホームレス・貧困支援を行っていた。スタッフへのインタビューを通して、団体運営やプログラム企画、支援の方法などから学んだソーシャルワークについて発表する。



・中年ひきこもり支援における制度のはざまの問題とアウトリーチ  
今井 昭大（学部4年 / 文武両道同好会）

内閣府（2019）「生活状況に関する調査」によると、40～64歳のひきこもりは、全国で約61万人にのぼると推計されている。特に、中年ひきこもりの生きづらさは、社会が右肩下がり大きく変動する中で、障病、学校でのいじめ・不登校、職場での違法労働・不安定雇用などを機に社会的な居場所を失い、本人や家族の責任として抱え込まざるを得ない構造に起因している。一般社団法人ひきこもりUX会議（2021）「ひきこもり白書2021」によると、当事者・経験者の半数以上が一度は支援機関に頼りながら、望む支援が得られずに長期化している実態がある。発表者は、長期のひきこもり経験者である。地域ネットワークと官民連携によるアウトリーチ支援に着目し、考察する。



日本社会事業大学 同窓会

社大生あつまれ！あなたのキャリアプラン実現のための福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会 11:30 ~ 15:40 [A101]

社大生のみなさんが、これからどのような福祉分野の職場で仕事をしていきたいのか、キャリアプラン作成の手掛かりにしてください。「就活」や「相談援助実習先」の選択にもきっと役立ちます。この交流会は、日本社会事業大学同窓会×社会福祉学会のコラボ企画です。



\* 福祉現場の経験豊富な先輩達が、学生のみなさんをサポート！

子ども、障がい者、高齢者などの現場は？様々な福祉分野の業務内容。一日の仕事の流れ。あなたのキャリアプランを描こう。



\* 「OB・OGがなぜこの現場で働いているか？」話を聞く！

先輩達と話すことで初めてわかることがあります。志望した理由は？仕事をして良かったことは？仕事のやりがいは？などいろいろなことを聞いてみよう。



\* 「現場訪問」「OB・OG訪問」する。

実際の現場を見学して、OB・OGと話してみよう。  
jcsw ネットワーク職場体験応援制度で、同窓会が交通費を助成します。

◆ 全学年参加可、事前の申込みはいりません。 ◆ 特典 同窓会オリジナルグッズをプレゼント

(参加予定団体)

東京聖労院、まりも会、東京都手をつなぐ育成会、滝乃川学園、日本赤十字社、ル・プリ、白十字会、聖隷福祉事業団、武蔵野、光明会、常盤会、旭児童ホーム、大田幸陽会、睦月会  
【北海道支部】 栄和会、道内社会福祉法人【茨城県支部】 芳香会、県内社会福祉法人  
【栃木県支部】 すぎのご会、県内社会福祉法人【千葉県支部】 オリーブの樹、ドットライン



## &lt;自主企画分科会&gt; 1

韓国スタディツアーにおける、福祉の学びと交流 (スタディツアー報告) 13:30 ~ 15:40 【A301】



保坂 沙弥 (大学院博士前期課程 2 年 / 社会福祉学部 63 期 2023 年卒業)  
 五明 響 (大学院博士前期課程 1 年 / 社会福祉学部 64 期 2024 年卒業)  
 室橋 夏海 (大学院博士前期課程 1 年 / 社会福祉学部 64 期 2024 年卒業)  
 宮東 英維 (社会福祉学部 64 期 2024 年卒業)  
 相原 杏香 (学部 4 年)  
 菅原 みのり (学部 3 年)  
 須藤 美華 (学部 3 年)  
 浅見 海翔 (学部 2 年)  
 横内 爽 (学部 2 年)

有村 大士 (学部教授)  
 二神 麗子 (学部講師)

2024 年 3 月 17 日から 22 日まで行われた、スタディツアーでは韓国を訪問した。17 日から 19 日はソウル、20 日から 22 日は昌原・釜山にて、現地の大学生との交流や施設見学、文化探訪を行った。施設見学では、障害分野・地域福祉分野・高齢分野・児童分野・家族、異文化分野など、様々な分野の施設を見学し、日本との違いや特色などを学んだ。現地の大学生との交流は、三育大学と国立昌原大学の 2 か所で行い、それぞれの大学のカリキュラムや実習の様子、大学生活などについて発表を行った。このように様々な施設や交流を通して、得た学びを発表する。

## &lt;自主企画分科会&gt; 2

社会福祉士の輪郭をとらえる

13:30 ~ 15:40 【A302】



本田 優斗 (特定非営利活動法人ほっとポット副代表 / 社会福祉学部 61 期 2021 年卒業)  
 湯澤 喬宏 (社会福祉法人ゆうゆう / 社会福祉学部 61 期 2021 年卒業)  
 日下 公佑 (本学社会福祉学会評議員 / 社会福祉学部 57 期 2017 年卒業)

## 【助言者】

上村 勇夫 (学部准教授)

日本社会事業大学卒業生の社会福祉士 3 人が、大学での学びや現場での実践を振り返り、社会福祉士の専門性について考察する。1 人目の日下は、地域共生社会の実現に求められた社会福祉士教育のあり方について。現場の社会福祉士としての疑問や矛盾を元に考察する。2 人目の本田は社会福祉士の専門性の向上について、自己研鑽をテーマにこれまでの経験を踏まえながら考察する。3 人目の湯澤は、社会福祉士における名称独占の意義について、なぜ名称独占なのかという問いを、北海道で福祉実践を行うインフォーマルグループの活動から紐解く。

## &lt;自主企画分科会&gt; 3

環境・災害と福祉の予防的支援

13:30 ~ 15:30 【A401】



## 【進行】

入部 寛 (社会福祉学部教授 / 学長室 多心型福祉連携センター センター長)

## 【シンポジスト】(五十音順)

大島 隆代 (文教大学人間科学部准教授)  
 木戸 宜子 (専門職大学院教授)  
 須江 泰子 (専門職大学院講師)  
 鶴岡 優子 (在宅療養支援診療所 つるかめ診療所所長)

多心型福祉連携センターでは、多様な主体が対等の立場で自発的に連携し協力、補完し合いながら地域社会が抱える福祉課題を解決しようとする取組のあり方を研究しています。本自主企画分科会では、本学の研究者に加え、他大学の研究者や実践者をお招きして、災害時や平時の福祉等における予防的支援について、情報を共有し、議論したいと思います。ご参加の皆様と交流を深める機会になればと考えております。お気軽にいらしてください。

<自主企画分科会> 4

産業ソーシャルワーク ～職場のメンタルヘルスにおけるソーシャルワークの必要性と可能性～ 13:30～15:30【A402】



【話題提供】

- 大櫛 重光 (専門職大学院「職場のメンタルヘルス」講義担当 兼任講師(非常勤) / 研究科 1991年卒業)  
田村 三太 (一般社団法人 MHC リサーチ & コンサルティング代表理事 / 専門職大学院 2024年修了)  
西川 あゆみ (国際 EAP 協会日本支部 理事)

【助言者】

鶴岡 浩樹 (専門職大学院教授)

本学専門職大学院では、「職場のメンタルヘルス」という講義を開講しています。この講義の大きな特徴は、職場のメンタルヘルスについて「産業ソーシャルワーク (Occupational Social Work)」ともいえる支援の必要性や可能性、課題についても検討しています。分科会では話題提供として、講義の担当講師である大櫛、専門職大学院でこの分野での実践研究テーマに取り組んだ田村氏、そして国際 EAP 協会日本支部から西川氏の3名から報告し、助言者として、「産業医」の経験を有する本学の鶴岡教授に参加して頂きます。本学在学・卒業・修了生は勿論、この分野に関心のある方に参加していただき、今後この分野での人的・知的交流に向けての検討も出来ればと考えています。

<自主企画分科会> 5

「包括的支援を担うそれぞれのソーシャルワーク実践 ～社大から紡がれる新たな力～」 13:30～16:00【B101】



【シンポジスト】

- 酒寄 学 (社会福祉法人芳香会茨城県地域生活定着支援センター センター長 / 社会福祉学部 36期 1996年卒業 / 大学院博士前期課程 14期 2004年修了)  
丹羽 彩文 (社会福祉法人昴 理事長 / 社会福祉学部 39期 1999年卒業)  
笹沢 梓 (法務省 少年院勤務 / 社会福祉学部 58期 2018年卒業)  
谷本 和駿 (社会福祉法人福岡県社会福祉協議会 生活支援部 / 社会福祉学部 60期 2020年卒業)

【助言者】

中島 修 (文京学院大学人間学部 人間福祉学科 学科長 / 社会福祉学部 34期 1994年卒業 / 大学院博士前期課程 6期 1996年修了)

【進行】

北川 進 (専門職大学院講師 / 社会福祉学部 36期 1996年卒業)

超高齢社会、社会的孤立、人々のつながりの希薄など様々な社会不安に起因して福祉課題が複雑、深刻化している中、ソーシャルワーカーは声なき声に耳を傾け、悩み葛藤しながらそれぞれの領域において当事者や地域課題と向き合っている。一方、これらの福祉課題はそれまでの領域の範囲では支えきれず、より一層の連携協働が必要であり、領域を超えた支援者間のつながりや展開が求められていることは言うまでもない。そこで本分科会は、本学卒業生から実践報告を得て連携協働のあり方を深めるとともに、本学の強みである同窓生のとつながりや連帯感を参加者で共有し、本学というつながりから生まれる新たな力とは何かを探ることを目的として開催するものである。



## 基調講演Ⅱ

10:00～12:00【講堂・オンライン】

司会：菱沼 幹男（学部教授）

（手話通訳・パソコン通訳あり）



## 「新聞記者⇄社会福祉士の視点から『虫の目、鳥の目、魚の目』～福祉を複眼的に捉えるために～」

講演者 <sup>きはら</sup> <sup>いくこ</sup> 木原 育子 氏

東京新聞特別報道部記者、社会福祉士・精神保健福祉士  
（本学通信教育科修了生）



### <プロフィール>

愛知県出身、名古屋大学大学院修了後、2007年に中日新聞社に入社。2015年から東京社会部で警視庁クラブや都庁記者クラブ、戦取取材班を担当し、2020年から特別報道部。2021年に日本社会事業大学通信教育科社会福祉士養成課程、2022年に同精神保健福祉士課程を卒業。現在は精神医療や司法福祉、児童養護など福祉に関わる社会課題を中心に取材中。アイヌ民族を巡る差別問題では、2023年のメディアアンビシャス大賞を受賞。社会福祉士と精神保健福祉士の資格を取得し、東京新聞特報面で企画連載「社会福祉士⇄新聞記者」を掲載している。共著に「戦後の地層 もう戦争はないと思っていました」（現代思潮新社）、児童書「月刊たくさんのふしぎシリーズ 一郎くんの写真」（福音館書店）など。

### <自主企画分科会> 6

コロナ禍における介護福祉士の活躍 ―当時の日々からわかること― 13:00～15:00【A401】



長谷部 裕美（大学院博士前期課程1年 / 学部非常勤講師）

上村 愛美（中村病院看護部看護師 / 社会福祉学部58期2018年卒業）

春日 聖（社会福祉学部58期2018年卒業）

保坂 美沙（介護老人保健施設支援相談員 / 社会福祉学部58期2018年卒業）

田澤 彩香（社会福祉学部59期2019年卒業）

星 明里（社会福祉学部59期2019年卒業）

新型コロナウイルスが第5類に移行して一安心・・・ですが、緊急事態宣言下の介護現場を支えた介護福祉士の経験がこのまま忘れられてしまうのは、とても寂しいことではないでしょうか。本企画は、当時の介護福祉実践をふり返り、記録として残すことを目的としています。当日は、介護福祉士を対象としたアンケート調査の結果を報告します。また、『コロナ禍での自分の生活はどうだった?』というテーマで来場者の皆さんが話し合うグループワークや、予防着・ゾーニングの体験会も行ないます。

当時福祉現場にいた皆さんはもちろん、新型コロナウイルスの影響で思うように実習が出来なかった学生の皆さんも、ぜひお越しください。

### <自主企画分科会> 7

高齢者ソーシャルワークについて語ろう 13:00～15:00【介護実習棟3階床上実習室・オンライン】



下垣 光（学部教授）

共同発表者：学部 下垣ゼミ卒業生

認知症ソーシャルワークの現在にいたるまで展開とそのあり方への話題提供と、学部下垣ゼミ卒業生の高齢者福祉専門ゼミの学びから経て卒業後のソーシャルワーク実践の報告をおこない、高齢者ソーシャルワークの方向性への討議をおこなう。Zoomも使用し、来場できないゼミ卒業生も参加する形式をとります。

# ご案内

- ① 参加資格：どなたでも参加できます。対面での参加者は、必ず会場で受付をしてください。  
オンライン併用企画にオンラインで参加する場合は、下記の参加申込フォームよりお申込みください。  
\*オンライン参加は、インターネット接続が必要です。
- ② 参加費等：無 料
- ③ 手話通訳：1日目の開会式、基調講演Ⅰ、2日目の基調講演Ⅱには手話通訳が付きます。
- ④ 昼食等：6月22日 12:00～13:30は、食堂が利用できます。
- ⑤ 駐車スペースがありませんので、ご来場には公共交通機関をご利用ください。  
※内容・スケジュールは変更になる場合がございます。ご了承ください。
- ⑥ 障がい等のため、特別な配慮が必要な方は、あらかじめお申し出ください。

## 【オンライン参加】

オンラインでの参加は、6月22日・23日の本部企画及び一部の自主企画が対象となります。  
オンライン併用企画にオンラインで参加される場合は、事前に下記より申しいただき、Zoom情報や資料を取得ください。

◆参加申込フォーム

<https://fs220.xbit.jp/b646/form7/>

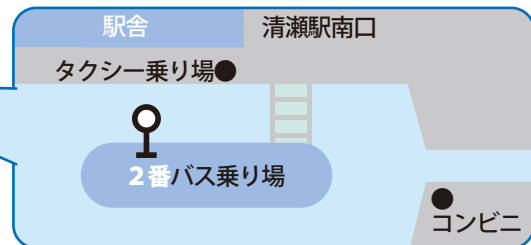
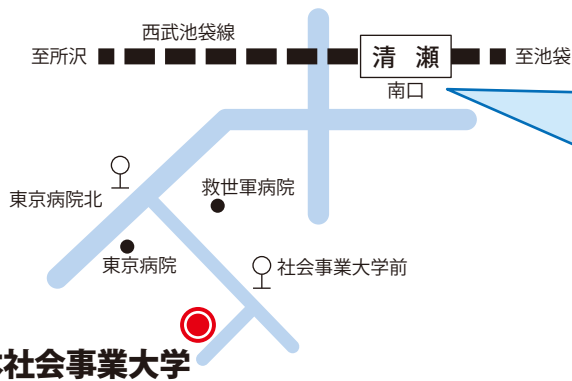


## 【対面参加】

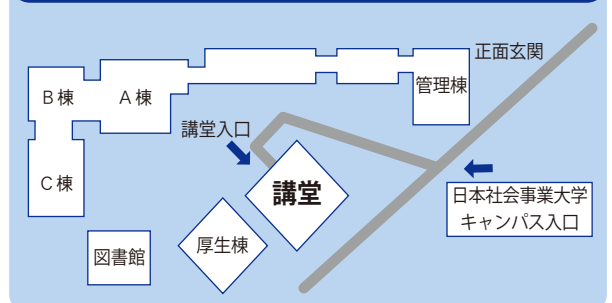
会 場：本学清瀬キャンパス

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30

### 交通機関のご案内



### 日本社会事業大学キャンパス



### 交通機関

西武池袋線「清瀬駅」下車（池袋より準急で21分）

南口ターミナル2番より西武バス8分

- 「下里団地」行き又は「花小金井」行き「社会事業大学前」下車、徒歩1分
- 「久米川」行き「東京病院北」下車、徒歩5分



■主 催 学校法人日本社会事業大学 / 日本社会事業大学社会福祉学会

■お問い合わせ 〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30

学校法人日本社会事業大学 社会事業研究所（社会福祉学会事務局）

Tel 042-496-3050 Email swri@jcs.w.ac.jp